令和6年度 第2回豊田市博物館運営協議会 会議録

1 日 時 令和7年3月18日(火) 午前10時15分～正午

2 開催場所 豊田市博物館 セミナールーム

3 出席者

〈委員〉 (敬称略・50音順) 北村 和宏・釘宮 順子・黒澤 浩・西塔 隆
柴田 みどり・新美 倫子・布垣 直昭・平野 敬一・深谷 暢樹(以上9名)
〈事務局〉 村田館長・高橋副館長・鈴木副主幹・倉林担当長・伊藤担当長・名和主査
(以上6名)

4 会議の経過

館長あいさつ、会長あいさつ、出席委員の報告(8名)を確認し、本会議が成立することを宣言した。議事録署名人として、職務代理者の布垣委員を指名した。傍聴人なし。

5 会議内容

(1) 開館後の利用実績について

・資料1により、令和6年度の豊田市博物館観覧者数、施設利用者数、事業実績などについて事務局から説明した。

委員

ショップ利用者数というのは、購入者のことか。

事務局

そのとおり。

委員

博物館学習は市外学校も含まれるのか。実績値は、1校であれば1回と数えるのか。

事務局

博物館学習は、市内の学校を対象として平日はほぼ毎日実施しており、市外の学校を受け入れる余力は今のところ無い。博物館学習は、各学年・各教科の単元に位置付けて行われる。大規模校は一度に受け入れることが困難なため、2・3回に分け複数日で受け入れており、実績値は重複する。

委員

旅行ツアーで訪れる方は、開館前に入れないのか。

事務局

一般来館者として開館時間内での入館となる。館外は自由に散策できるため、開館時間前にご来館いただいた場合、館外を見学している方が多い。

委員

美術館との連携やロケーションの活かし方は、まだ十分ではないように思う。

12月は閑散期となるが、その時期を展覧会期間とした意図や、開館記念展として、縄文

時代をテーマとした意図はどのようなものか。

事務局

建物のコンクリートから発生するアンモニア等の枯らし期間を設けるため、9月までは企画展を開催しなかったことによる。美術館との連携という点では、合同マルシェなどを春・秋それぞれ開催したと共に、美術館の展覧会「エッシャー 不思議のヒミツ」などに際しては、施設間の往来が多く見られた。

委員

個人パートナーの活動は順調か。追加の募集は実施しているのか。

事務局

順調である。個人パートナーを対象に令和6年11月に実施したアンケートでは、様々な意見いただいた。次年度以降に生かしたい。募集については、令和6年度は実施しておらず、今後、時期を考慮し募集する考えである。

委員

常設展観覧者数が少ないが、常設展観覧者数は、企画展観覧者数に含まれているのか。

事務局

常設展観覧者数は、常設展観覧券で入場した方のみ数である。実際にはこの数とは別に、小学生未満の子どもと、企画展観覧券による常設展観覧者が足されることになる。令和7年度第1回運営協議会で、再度ご報告する。

事務局

これまでの経験でも、大規模な展覧会を見ると、そのボリュームで満足して、常設展に入る人が少なくなる傾向がある。展覧会会場の出口に常設展示室への案内を掲出するなどして案内している。

委員

これまでに一度見ているから、常設展をパスしている方が多いのではないか。

委員

リピート率を上げることが大事。企画展をやることで何度も足を運んでもらう。その内の何回かで常設展を見てもらうようにする。企画展をやらないと常設展観覧者数は減る。

委員

高大生の内訳は個人か団体か。

事務局

個人がほとんどである。高校生の団体は無かった。

(2) 展覧会事業について

- ・資料2により開館記念展「旅するジョウモンさん」開催結果について、資料3により、令和7年度の展覧会事業について、それぞれ事務局から説明した。

<資料2について>

委員

常設展で登場するキャラクターを、企画展でも取り上げる試みが良い。また、企画展を見た後、常設展の観覧へと誘導できる連携が良かった。縄文不動産は時代を越えて現実に合わせることで、興味を持ってもらえる取り組みが良かった。また、今回の企画展、常設展のキャラクターを、今後も登場させ続けることで、それを楽しみにしてくれる人が出てくるのではないかな。

委員

ストーリー性があり、ボリュームもあり、フォトスポットもあり良かった。色々なことを探すことが楽しめる展覧会だった。

委員

縄文不動産はとても面白かった。以前、市内の文化財を地図映像等に表示し、子どもに興味を持ってもらうアプローチについて話をしたことがあった。縄文時代以外にも、様々な埋蔵文化財が豊田市にはあるので、縄文不動産以外でも今後取り組んでいけるのではないかな。広く埋蔵文化財を市民の方に知ってもらう機会になる。

委員

土偶の展示が少なかったなので、もう少し展示されると良かった。

事務局

少なかった理由としては、土偶が少ない縄文時代中期を取り上げた点、国宝・重要文化財など指定文化財の土偶は、借用に伴うハードルが高い点、他の博物館の展覧会と展覧会開催が重複し借用が困難だった点が挙げられる。今後是非取り組んでいきたい。

委員

アンケートに書いてあることと同様に、説明不足であると感じた。この数は重く受け止めた方が良いと思う。また、図録の表紙に、いつ開催された展覧会かの記載があると良かった。また、背表紙の下に博物館の名前があると、図書館で配架するに際して登録ラベルと被ってしまう。

事務局

キャプションに都道府県名など基礎的な情報がなかったのは良くなかった。地理に関わる情報は必要であり、今後そのようにしていく。常設展については、市内にフォーカスした展示をしているため、企画展については、より幅広い地域を取り上げつつ、市内のものを新しい目線で見ることができるよう工夫をしていきたい。

<資料3について>

委員

豊田市との関連性を考えて展覧会を計画しないのか。

事務局

豊田市との関連性を考えて計画したい。展覧会「深宇宙」は、本市の企業や宇宙開発との関連が挙げられる。展覧会「古代エジプト」は、豊田市との直接的なつながりというより

は、いろんな方が来館するきっかけづくりと考えている。展覧会において幅広いジャンルを取り上げることは強みになるし、市民が世界や未来に触れるきっかけになる。

委員

伊能忠敬は、市内を測量しており、その事実について展覧会を紹介する広報資料にしっかり記載するべきだ。

委員

展覧会「岸田吟香と岸田劉生」についてだが、拳母藩と関わりがある岸田吟香の顕彰会はあるのか。岸田劉生を取り上げるが、なぜ美術館ではなく博物館なのかが分かると良い。また、豊田市とのつながりも出せると良い。

事務局

岸田吟香の顕彰会は市内にはないが、郷里となる岡山県的美咲町にある。本市とのつながりを意識して展示計画している。

委員

広報物において、拳母藩士で豊田市と関わりがあることを明示すると、市内の方に興味を持ってもらえると思う。

委員

美術館の展覧会「モネー睡蓮のとき」と、博物館の展覧会「古代エジプト」の開催期間が重複しており、自動車の渋滞が予測される。地元への配慮をお願いする。

事務局

公共交通機関をご利用いただくよう広報物に記載する。

委員

小中学生が楽しい展覧会にすると親も付いてくる。小・中学生へのアプローチも考えると良い。

委員

展覧会に関連して子どもが参加できる体験的な活動があると良い。

委員

なぜ、古代エジプトの展覧会を豊田市でやるのかと考えたときに、古代エジプトの人々の暮らしにフォーカスを当てているところが良いと思った。古代エジプトは、日本では縄文時代にあたるので、その対比があると子どもの学習に活かせるのではないかと。

委員

高校生の学習として、世界史と日本史をまたいで、全体の歴史を学習できると良い。

(3) 常設展観覧者の展示評価について

- ・資料4により常設展観覧者の展示評価について、事務局から説明した。

委員

企画展と常設展との間で、展示構成に繋がりがあると良い。

事務局

当館の設計として、企画展を開催する展示室1・2と常設展示室が同一のフロアにあり、

距離が近いことが特徴の一つ。その特徴を活かして、常設展示室では、企画展に関連したハンズオンなど体験的な展示を実施しており、子育て世代からの評価が高くなった。

委員

時間を決めてパートナーがガイドするようなことは実施しているか。

事務局

現在、休日は概ねパートナーが展示室に常駐しており、随時ガイドの対応をしている。時間を決めことにより、来館者が参加しやすくなるなどのメリットも想定できるため、今後、ガイドの活動グループに参加するパートナーと意見交換したい。

委員

常設展の展示替えした部分は、その事実を周知する表示しないのか。

事務局

表示を出した方が良い場合もあると思う。今後検討したい。

委員

地元として、以前より博物館が立地する土地に存在した七州城や、七州の言葉の意味について案内があるとよいと思ってきた。パノラマスロープのメッセージボードで七州城のコメントがあるところに、双眼鏡が設置してあるが、何か関連はあるのか。

事務局

関連はない。メッセージボードは、常設展に関わる館からのメッセージや常設展を観覧した観覧者のメッセージを表示している。双眼鏡は、集合展示の観覧補助のため設置した。

委員

七州城や、七州の言葉の意味についても案内があるとよい。

事務局

開館時は、「とよたストーリー」内で展示を行っていた。どのように恒常的にご指摘の部分を館として提示できるか検討していく。

委員

アンケートを実施した時期に、団体パートナーとして常設展内「とよたストーリー」で地下資源の展示をした。準備期間や展示スペース等の制約があり、中身の濃い展示が出来なかったことが残念。アンケートで、弱みとして「分からなかったからもう一度見てみよう」とある。これが博物館の狙いであり、自分で調べる、受動的に関わってもらえるきっかけになると思う。強みで、家族三代で話がはずんだとあるが、展示で会話がはずむきっかけを生み出せることは良いことだと思った。

委員

パノラマスロープの高さは、子どもが乗り上げたときに、落下の危険はないか。

事務局

乗り越える足掛かりが無く、看視のスタッフも多いため、そのような状況は無い。引き続き注意していきたい。

委員

スロープからたいけんラボのジオラマへの物の落下はあるか。

事務局

写真を撮ろうとしてスマートフォンを落とすなどがまれにある。

委員

豊田市博物館は、さほど大規模ではなく、百万人単位の利用者数を目指すような中での競争を目指す館ではない。小規模館ほど、常設展を大きく変えることはできないので、紹介の仕方や見方を変化させるなど工夫が問われる。年に4回企画展が変わるのなら、そのうち1回は常設展との連携を意識するなど効果的ではないか。夏休みは、子ども向けに分かりやすい言葉を添えるなど。常設展と企画展の連携については、企画展でも紹介することが大切である。

事務局

従来の博物館の常設展は、あまり観覧者がいないという状況が多く見られる。豊田市博物館の常設展は、その実際の空間の中に身を置いて、体験や体感で心に働きかけて展示空間や資料に興味を持ってもらい、そこから地域への関心を引き出すことを目指している。そのアプローチの効果が、世代によって共感を得るか否かに差があることを、今回のアンケートを通じて認識できた。常設展と企画展との連携については、当初から連携を想定して計画できる自主展と、そうでない共催展や巡回展とで連携させる難易度や効果が異なる。今後も挑戦していきたい。

委員

年4回の全てで取り組むのではなく、人が多く来るピークの時期を狙って実施すれば良いのではないかと。それでもかなりの集客が期待できるだろう。

委員

博学連携委員会の意見も踏まえ、反映させると良いと思う。縄文の縄の文様をつける体験は、非常に心動かされ興味深かった。

事務局

展覧会「旅するジョウモンさん」開催時に、常設展では、豊田市教育自主研究グループ社会科・理科合同部会の教員が企画・制作したハンズオンによる展示を行った。その成果も今回のアンケートの高評価につながったと思う。

委員

アンケートで書かれていることがすべてではないか。厳しい意見に耳を傾けるのは難しいけれども、丁寧に見てほしい。

委員

なるほどと感じる意見も多い。しかし、全ての人が満足するのは難しいだろう。ある程度は、館の姿勢として自分たちはこの方向性で取り組むというのがあって良いのではないかと。

事務局

強みと評価される取組も、別の側面では弱みを伴う。常設展の順路は、強制動線として設けてはいないが、反時計回りを見ていただくことを想定して展示構成している。スタッフからのご案内やサインなどでお勧めしていきたい。当館は、企画展との連携など、他館では取り組めていないアプローチにも積極的に実施しており、もっと工夫して取り

組んでいきたい。また、展示されている内容について、説明をどこまで付けるべきか。付けるべきものは付けるが、できるだけ減らし、自らの目を見て、考えてもらうことを目指している。弱みを意識しすぎて、本来目指している良さや強みをなくしてしまわないようにしたい。お声を無視することはせず、耳を傾けながら取り組みたい。

委員

良い評価ばかりに目を向けがちだが、厳しい評価は大切な情報である。全て対応するのは難しいが、すぐやること、中長期的にやること、やらないことを分けて、ブラッシュアップしてもらいたい。

以上で、本日の議事をすべて終了する。